

長期栄養調査対象者の調査参加状況とその後の意識

金子 俊

The State of Participation and Later Consciousness in Long Term Nutrition Survey

Shun Kaneko

はじめに

地域の栄養問題を論議するための資料として栄養調査の成績が用いられる事が多い。しかし、前後に成績が得られない一過的な断面的栄養調査の場合、自然的社会的影響を受けた偶発的成績である可能性があり、日常性が十分把握されていないことが考えられる。同一地域で経年的に繰り返し行った調査の場合でも、対象者の多くがその都度入れ替わるような調査では時系列的な変化をみるには難点が多い。また、同一対象者であってもある年度とある年度の間隔を空けて調査を行った場合など、調査がなされなかった期間の消長を捉えることはできない。

こういったことを考えると、地域の栄養問題を論議するには、同一の対象者が長期にわたって継続的に参加したコーホートの栄養調査成績の方が地域の栄養問題を論議する資料としてより望ましいことはいうまでもない。しかし、経年的に長期間で、しかもかなり煩雑で数日間に及ぶような栄養調査の場合、調査を企画・実施する側の意図に反して、対象者の都合や意欲、興味、理解などで断続的な参加になったり、場合によっては中断してしまうことが多く、長期間継続的に参加させることに困難がともなうことが多い。

疫学的調査で多く実施されるコーホート調査について、コーホートをしっかり掌握し続

けることは困難である、とさえいわれている¹。コーホート調査を巡っての例としては、幼児、小児、学童期など²⁻⁵からのかなり長期間に及んだもの、また、米国の Framingham Study⁶などの例があるが少数である。

著者らは、以前本誌⁷⁻⁹や学会等¹⁰⁻²²に一部報告したことがあるが、秤量を伴ったかなり煩雑な栄養調査を自発的に申し出のあった都市近郊農村婦人団体の会員を対象にして経年的に長期間にわたって実施してきた。今回、この栄養調査記録をもとに、対象者がどの程度調査に参加し、あるいは脱落してきたか、その状況を明らかにする。加えて、長期間の栄養調査が終了した段階で、対象者がこの長期間に及んだ栄養調査にどのような意識や印象をもって臨んでいたか、それを知るためのアンケート調査を実施した。そして、これら2つの調査資料の整理・解析によって経年的長期間の栄養調査を企画・実施する際の有益と思われる若干の知見を得たので報告する。

調査の概要

1. 栄養調査開始の経緯

本論でいう都市近郊農村とは、東京より50~60km圏に位置する千葉県山武郡大網白里町である。同町は大正年間に当時に内務省が全国120数カ村で実施した「農村保健衛生状態実地調査」²³の対象地域の1つである。そ

こは現在の同町山辺地区に相当する。そして、当時の記録が60年後に発見され、そして、昭和51・52年に著者らも参加してその追跡調査²⁴として栄養、歯科、寄生虫をはじめ各種の衛生関連調査を実施した。

その時の追跡調査を支援してくれたのが大網白里町の婦人団体の一つである栄養改善協議会の会員であった。追跡調査が終了するに際し、会員の中から「自分達にもこのようなことができるのではないか」という声が始まり、会の活動の一つとして自発的に栄養関連調査に乗りだした。そして、この頃から著者らが支援して初冬には栄養調査、夏には貧血や血圧測定などを中心にした健康調査をこの会の会員に対し行うこととなった。

なお、同栄養改善協議会は、昭和45年に発足した同町のボランティア集団の一つで、その構成は会長、副会長などの役員の他に町当局から100名分の補助金が会に支給される栄養改善推進員（役員は全員推進員）と補助金が支給されない一般の会員からなっている。この推進員であるが、その決め方はほぼ入会年数であって、活動にあたっては推進員と一般会員との間には何ら区別はない。

2. 調査方法

栄養調査については、昭和53年より経年的に昭和62年にいたるまでの10年間、各年度の栄養改善協議会員中で任意に調査参加者を募り、毎年11月の平日3日間、調査に参加した対象者自身が飲食した全てについて秤量して記入するという国民栄養調査法に準じた自記式の個人別栄養調査用紙²⁵を用いて実施した。しかし、この間の調査対象者に対して、栄養調査で得られたデータの集計・解析結果を、ほとんどフィードバックすることはなかった。

そして、調査終了後の平成2年12月、昭和53年から62年の間に栄養調査に参加・不参加の有無にかかわらず、栄養改善協議会に在籍したことのあつたもの301名全員を対象に、栄養調査の実施に関連した無記名アンケート調

査（整理番号により対象者の特定可能）を実施した。

調査のやり方は、表1に示したような、会での地位、栄養調査参加の有無や参加回数、参加動機、調査に対する印象、不参加の理由などについてであり、返信用封筒を同封の上、直接対象者にアンケート用紙を郵送した。

アンケート用紙の回収状況は、転居等の理由による宛先不明で25通が返送され、回収し得たその数は142通であった。しかし、回答者の中に、7名が実際には調査に1度も参加したことがないということが判明し、回答者の錯誤か虚偽の申告と思われるので、この回答を集計から除外した。従って、集計対象としたアンケート用紙は135通（44.9%）である。

調査の結果

1. 栄養調査

1) 調査参加者の特性

調査に参加した者の平均年齢は、昭和53年は 49.8 ± 7.1 歳（最低35歳、最高62歳）、体位は身長 153.4 ± 4.6 cm、体重 54.9 ± 7.0 kg、桂・Bro.は 111.9 ± 13.1 である。また、業態は農業46.9%、主婦30.6%、その他22.5%であった。そして、これらは調査年度毎にほぼ1歳ずつの加齢がみられたほかは、調査年度間に顕著な差異はみられない。

2) 会員数の動静と年度別調査参加状況

会員の在籍数と栄養調査参加状況について年度別に示したのが表2である。

全体としては、調査が開始された昭和53年の会員数は108名であり、昭和54年以降の新規入会者は13名から29名と多いが、毎年若干の退会者がいる。その結果、会員数は経年的に逡増して昭和61には200名を超える。そして、継続して会員になっている者の割合は入会年度間に差があるが、栄養調査が開始された昭和53年の在籍者108名は10年を経ても73名、67.6%が継続して会員となっている。

表2 入会年度別会員の動静と調査参加状況 () : %

	昭53	54	55	56	57	58	59	60	61	62
53年	108 (100.0)	100 (92.6)	96 (88.9)	89 (82.4)	87 (80.6)	85 (78.7)	79 (73.1)	78 (72.2)	76 (70.4)	73 (67.6)
	80 (100.0)	87 (108.8)	73 (91.3)	60 (75.0)	63 (78.8)	60 (75.0)	54 (67.5)	47 (58.8)	47 (58.8)	38 (47.5)
	74.1	87.0	76.0	67.4	72.4	70.6	68.4	60.3	61.8	52.1
54年		26 (100.0)	25 (96.2)	25 (96.2)	22 (84.6)	19 (73.1)	19 (73.1)	19 (73.1)	19 (73.1)	15 (57.7)
		17 (100.0)	15 (88.2)	11 (64.7)	11 (64.7)	12 (70.6)	11 (64.7)	10 (58.8)	9 (52.9)	7 (41.2)
		65.4	60.0	44.0	50.0	63.2	57.9	52.6	47.4	46.7
55年			29 (100.0)	27 (93.1)	24 (82.8)	21 (72.4)	16 (55.2)	14 (48.3)	14 (48.3)	11 (37.9)
			15 (100.0)	8 (53.3)	14 (93.3)	10 (66.7)	6 (40.0)	5 (33.3)	7 (46.7)	7 (46.7)
			51.7	29.6	58.3	47.6	37.5	35.7	50.0	63.6
56年				13 (100.0)	13 (100.0)	12 (92.3)	12 (92.3)	10 (76.9)	9 (69.2)	8 (61.5)
				7 (100.0)	8 (114.3)	6 (85.7)	3 (42.9)	6 (85.7)	7 (100.0)	5 (71.4)
				53.8	61.5	50.0	25.0	60.0	77.8	62.5
57年					16 (100.0)	13 (81.3)	12 (75.0)	12 (75.0)	12 (75.0)	11 (68.8)
					11 (100.0)	9 (81.8)	6 (54.5)	5 (45.5)	4 (36.4)	5 (45.5)
					68.8	69.2	50.0	41.7	33.3	45.5
58年						26 (100.0)	21 (80.0)	18 (69.2)	16 (61.5)	14 (53.8)
						8 (100.0)	6 (75.0)	3 (37.5)	5 (62.5)	5 (62.5)
						30.8	28.6	16.7	31.3	35.7
59年							20 (100.0)	20 (100.0)	20 (100.0)	19 (95.0)
							14 (100.0)	10 (71.4)	10 (71.4)	11 (78.6)
							70.0	50.0	50.0	57.9
60年								20 (100.0)	19 (95.0)	17 (85.0)
								10 (100.0)	9 (90.0)	8 (80.0)
								50.0	47.4	47.1
61年									21 (100.0)	13 (61.9)
									3 (100.0)	4 (133.3)
									14.3	30.8
62年										22 (100.0)
										6 (100.0)
										27.3
会員数	108 100.0	126 116.7	150 138.9	154 142.6	162 150.0	176 163.0	179 165.7	191 176.9	206 190.7	203 188.0
参加者	80 100.0	104 130.0	103 128.8	86 107.5	107 133.8	105 131.3	100 125.0	96 120.0	101 126.3	96 120.0
参加率	74.1	82.5	68.7	55.8	66.0	59.7	55.9	50.3	49.0	47.3

表3 入会年度別調査継続参加状況

	1年目	2	3	4	5	6	7	8	9	10
53年	80 100.0	72 90.0	56 70.0	39 48.8	33 41.3	27 33.8	26 32.5	21 26.3	20 25.0	17 21.3
54年	17 100.0	11 64.7	6 35.3	4 23.5	3 17.6	2 11.8	2 11.8	1 5.9	1 5.9	
55年	15 100.0	5 33.3	4 26.7	2 13.3	2 13.3	2 13.3	1 6.7	1 6.7		
56年	7 100.0	5 71.4	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3			
57年	11 100.0	7 63.6	6 54.5	3 37.5	1 6.3	1 6.3				
58年	8 100.0	5 62.5	3 37.5	3 37.5	2 25.0					
59年	14 100.0	10 71.4	5 35.7	3 21.4						
60年	10 100.0	7 70.0	3 30.0							
61年	3 100.0	2 66.7								
62年	6 100.0									
継続率	100.0	75.2	53.1	36.2	30.4	25.4	25.2	20.5	21.6	21.3

調査参加者であるが、会員の増加数とは並行しておらず、調査初年度の昭和53年の80名の参加率は74.1%であるが、その後の調査の参加者は100名内外の凹凸を繰り返しながら推移する。従って、調査参加率は経年的に通減傾向をたどることになり、9年目の昭和61年では50%を割るに至る。

また、入会年度別の調査参加率は、各年度とも凹凸を繰り返しながら通減傾向を示しているが、53年度在籍者は10年を経た昭和62年に至っても50.0%を欠いていない。しかし、昭和54年から58年の入会者の調査参加割合は数年目にして参加者が50%を下回っている状況がみられる。また、調査参加状況は入会年度が遅いほど参加率が低くなる傾向が窺われ、昭和61年入会者21名中、入会1年目に調査に参加した者は僅かに3名(14.3%)だけである。

なお、10年間に会員として在籍した301名

の内、1回以上栄養調査の経験があるものは214名(71.1%)である。

3) 入会年度別調査継続参加状況

調査の継続参加状況をまとめたものを表3に示す。

全体としてみた場合、2年目から4年目までの参加割合の減少は著しく、4年目では36.2%となる。しかし、その後の継続参加割

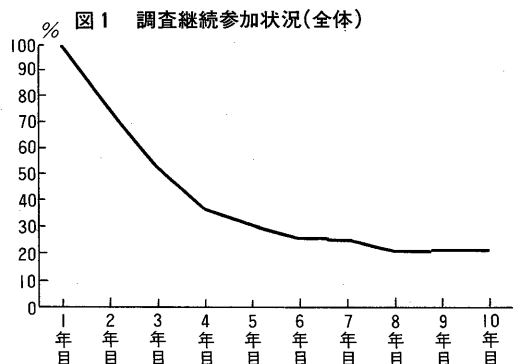


表4 役員・非役員別調査参加状況

年 度	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62
役員	10	10	15	14	16	16	20	19	20	20
参加者	15	14	12	13	15	15	17	15	20	17
参加率	93.8	87.5	80.0	92.9	83.3	83.3	85.0	78.9	100.0	85.0
非役員	92	110	135	140	144	158	159	172	186	183
参加者	65	90	91	73	92	90	83	81	80	78
参加率	70.7	81.8	67.4	52.1	63.9	57.0	52.2	47.1	43.0	42.6

表5 調査参加の理由（複数回答）

	役員(27)	非役員(95)	全体(122)
1. 会の活動であるから進んで	25(92.6)	66(69.5)	91(74.6)
2. 会の活動であるからしかたなく	1(3.7)	16(16.8)	17(13.9)
3. 自分の状態を知るため	26(96.3)	68(71.6)	94(77.0)
4. 会全体の状態を知るため	13(48.1)	15(15.8)	28(23.0)
5. 他の会員に進められたから	0(0.0)	10(10.5)	10(8.2)
6. 人の経験やうわさを聞いたから	1(3.7)	7(7.4)	8(6.6)
7. 役員や推進員だから他に範を示すため	18(66.7)	16(19.5)	34(31.2)※
8. なんとなく	1(3.7)	6(6.3)	7(5.7)
9. おもしろそうだから	1(3.7)	3(3.2)	4(3.3)
10. 簡単そうだから	0(0.0)	3(3.2)	3(2.5)
11. 難しそう、面倒そうであるが挑戦するつもりで	16(59.3)	39(41.1)	55(45.1)
12. 町や会の記録として残すため	18(66.7)	20(21.1)	38(31.1)
13. その他	2(7.4)	2(2.1)	4(3.3)

(※：役員・推進員経験者のみ)

合の減少は緩慢となる。この状況を図1に示す。

また、入会年度別に継続参加状況を見ると、2・3年目にして50%を割っている入会年のところが多いが、昭和53年度在籍者は他年度入会者よりいずれの年の調査においても参加割合が高い。

4) 会での地位別にみた調査参加状況

会長、副会長など役員と一般会員の調査参加割合について年度別に集計を行ったのが表4である。

役員の調査参加率は80.0%から100.0%の高率であり、調査回数を重ねても年度間の参加割合に大差がみられない。しかし、一般会員の調査参加割合はいずれの年度とも役員の

参加割合には及んでいない。そして、経年的に調査参加割合は低下傾向がみられ、10年目では42.6%まで減少する。

なお、役員経験者は昭和53年在籍者が33名（経験者は全体の97.1%）、54年度入会者が1名（同2.9%）で占めており、他の年度入会者ではない。

2. 調査終了後の意識

1) 回答者の特性

集計し得たアンケートは、現在会員であるもの88名（65.2%）、退会したもの32名（23.7%）、無記入15名（11.1%）である。また、会の役員経験の有無については、経験者27名（20.0%）、無経験者95名（70.4%）、無記入13名（9.6%）である。そして、栄養改善推進

員を経験したものは108名(80.0%)、経験の無いもの13名(9.6%)、無記入14名(10.4%)である。また、回答者の平成2年の平均年齢は57.4±9.2歳(最高82歳、最低37歳)である。

2) 調査参加の理由

調査参加経験をもつ者に調査参加の理由を問い、これを役員経験の有無別に集計したのが表5である。

役員を経験した者は「会の活動であるから進んで」、「自分の状態を知るため」、「会全体の状態を知るため」、「難しそう、面倒そうで

表6 栄養調査の実施方法 (): %

	役員	非役員	全体	
1. 11月という実施時期				
別の時期がよい	2(7.4)	6(6.7)	8(6.9)	
問題ない	25(93.6)	83(93.3)	108(93.1)	
計	27(100.0)	89(100.0)	116(100.0)	

2. 平日での調査は				
土曜・日曜がよい	0(0.0)	10(11.9)	10(9.3)	
夏休み冬休みがよい	0(0.0)	2(2.4)	2(1.9)	
問題ない	24(100.0)	72(85.7)	96(88.9)	
計	24(100.0)	84(100.0)	108(100.0)	

3. 3日間という期間は				
長い	0(0.0)	20(22.7)	20(18.0)	
短い	2(8.7)	2(2.3)	4(3.6)	
適当	21(91.3)	66(75.0)	87(78.4)	
計	23(100.0)	88(100.0)	111(100.0)	P<0.05

4. 食品を秤量することについて				
面倒・難しい	9(36.0)	58(65.2)	67(58.8)	
安易・簡単	6(24.0)	9(10.1)	15(13.2)	
どちらともいえない	10(40.0)	22(24.7)	32(28.1)	
計	25(100.0)	89(100.0)	114(100.0)	P<0.05

5. 家族の協力が必要でしたか				
必要	10(35.8)	40(43.5)	50(42.5)	
不必要	16(61.5)	52(56.5)	68(57.6)	
計	26(100.0)	92(100.0)	118(100.0)	

6. 調査結果に期待しますか				
期待する	24(88.9)	74(83.1)	98(84.5)	
期待しない	2(7.4)	4(4.5)	6(5.2)	
わからない	1(3.7)	11(12.4)	11(12.4)	
計	27(100.0)	89(100.0)	116(100.0)	

7. 再び栄養調査が計画されたら				
参加する	16(61.5)	46(51.1)	62(53.4)	
参加しない	3(11.5)	14(15.6)	17(14.7)	
わからない	7(26.9)	30(33.3)	37(31.9)	
計	26(100.0)	90(100.0)	116(100.0)	

図2 3日間という調査期間

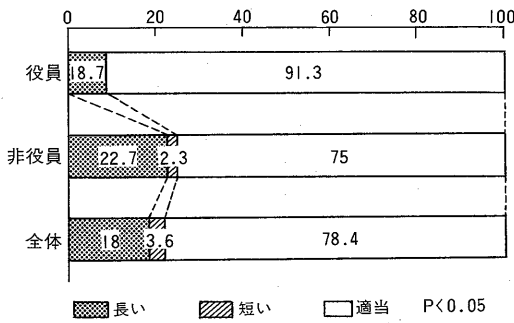
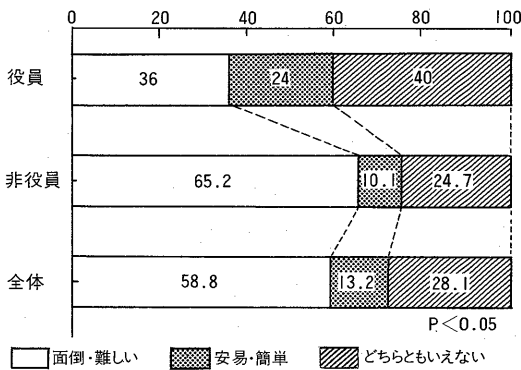


図3 食品を秤量することについて



あるが挑戦するつもりで」、「町や会の記録として残すため」といった各項目で、役員を経験したことのないものよりかなり高い割合で参加の理由として挙げている。そして、これらの項目の内、「会全体の状態を知る」という項目以外はいずれも50%を超えている。また、「役員や推進員だから他に範を示すため」という回答が66.7%もあった。

全体としての回答としては「自分の状態を知るため」77.0%、「会の活動であるから進んで」74.6%などという回答が多い。

3) 調査実施方法の適否

調査の実施にあたっての適否について表6に示す。

全体として、調査の「実施時期に問題ない」という者は93.1%、「平日での調査」については問題ないという者は88.9%に達している。「3日間という調査期間」については

表7 実際調査に参加しての全体の印象 (複数回答) (%)

	役員	非役員	全体
面倒だった	12(44.4)	54(56.8)	66(54.1)
難しかった	6(22.2)	14(14.7)	20(16.4)
やさしかった	1(3.7)	6(6.3)	7(5.7)
楽しかった	6(22.2)	17(17.9)	23(18.9)
苦しかった	4(14.8)	2(2.1)	6(4.9)
ためになった	26(96.3)	68(71.6)	94(77.0)
ためにならなかった	0(0.0)	4(4.2)	4(3.3)
その他	8(29.6)	13(13.7)	21(17.2)

適当78.4%などという回答が多い。しかし、3日間の調査期間では役員経験者と経験がない者の間に統計的有意差 (P < 0.05) がみられ、役員経験者では「長い」という回答者がいないが、役員経験のない22.7%が「長い」と回答している (図2)。

食品を秤量することについて「面倒・難しい」という回答は全体の58.8%にみられる。中でも役員経験のない者は65.2%で「面倒・難しい」と回答しているなど、役員経験者の回答と有意な差 (P < 0.05) がみられる。これを図3に示す。そして、「家族の協力が必要」という回答が全体の42.5%でみられた。

調査結果に期待する者が多く、全体の84.5%が挙げている。また、再び調査が計画されたらという質問項目では、全体の53.4%が「参加する」と回答し、「参加しない」という者は14.7%にすぎない。

4) 調査参加の印象

実際に調査を経験して受けた印象について、各項目の複数回答で求めたところ、表7のように「ためになった」が77.0%あった反面、「面倒だった」という回答者も54.1%もみられた。また、「苦しかった」という役員経験者が14.8%おり、役員経験のない者は2.1%よりかなり多い。

5) 調査不参加の理由

実際に調査に参加しなかった者6名 (いず

表8 栄養調査不参加の理由(): %

忙しかったから	1(16.7)
難しそうだったから	0(0.0)
人の経験・うわさを聞いて	1(16.7)
なんとなく	1(16.7)
面倒そうだから	1(16.7)
結果に期待がもてない調査だと思ったから	0(0.0)
その他	4(66.7)

再び栄養調査が計画されたら	
参加する	4(66.7)
参加しない	1(16.7)
わからない	1(16.7)

(回答者6名 非役員のみ)

れも役員経験なし)の不参加の理由の各項目を複数回答で選択を求めたが、顕著な回答はない。しかし、再び栄養調査が計画されたら、「参加する」という回答者が4名(66.7%)、「しない」は1名(16.7%)である(表8)。

考察

地域を基盤とする栄養調査は、断面的な状況を知ることだけを目的とする調査以外、参加者が長期間にわたって参加し、継続して行われることが望ましい。

本栄養調査は、都市近郊の農村地域において実施されたものであり、対象者自身が所属する団体の自発的活動として行われた調査である。そして、対象者に農業従事者が割合多く11月の農閑期といえ、3日間に飲食したものの一切を秤量し、記録するという対象者にとってかなり煩雑な調査であった。しかも経年的に10カ年という長期にわたった調査であり、一種のコーホート調査とでもいえる追跡調査であって、途中脱落なく多くの者が継続して参加するというはいろいろ困難なことが伴ったものと思われる。

本調査では、会に所属したことのある301名の内、調査に1度以上参加した者は71.1%にのぼり、しかも毎年100名内外の調査参加

者で推移してきた。このことは、アンケート調査の回答内容にも顕在化し、全体としては調査参加の理由として回答割合が高い項目には、「自分の状態を知るため」77.0%、「会の活動であるから進んで」74.6%、「難しそう、面倒そうであるが挑戦するつもりで」45.1%などであった。また、「町や会の記録として残すため」にも31.1%が挙げられるなど、会員の調査に対する参加意識や理解度の高さは注目すべきことである。

しかし、調査の参加状況には、各年度における役員と役員でない者との間に参加状況が異なり、調査実施の各年度とも役員でないものの参加率は役員の参加率を上回ったことがない。このことはアンケートの回答でも明らかに違っており、役員経験者は「会の活動であるから進んで」、「自分の状態を知るため」、「会の状態を知るため」「難しそう、面倒そうであるが挑戦するつもりで」、「町や会の記録として残すため」などという回答項目で役員経験者は役員経験のない者の回答をかなり上回っており、いかに役員経験者は自分のためばかりでなく、町や会のために積極的に調査に参加していたかが窺われる。同時に役員経験のない者の回答で「会の活動であるからしかたなく」、「他の会員に進められたから」、「人の経験やうわさを聞いたから」、「なんとなく」などといった調査参加に消極的な各項目で役員経験者を上回って回答していたことは、役員であるという自覚がこうした調査の場合、重要なファクターになりうるかがわかる。

本調査対象者の中で特に注目されるのは昭和53年の在籍者である。この年度対象者の調査参加割合が他年度入会者よりかなり高いのは、この年度の会員は役員経験者が多いことや、本調査の動因となった大正年間に行われた内務省の農村保健衛生状態実地調査の追跡調査を支援したりして、本調査を開始した経緯をよく理解している結果が顕在化したもの

と思われる。また、53年度在籍者は、10年を経ても調査参加割合が50%以上であり、入会年度別に初回の調査参加割合を比較しても、他のどの年度より参加割合が高い。さらに、調査の継続参加状況においても、全体に3年ないし4年で継続割合が急減し、秤量を伴った栄養調査のような煩雑で経年的追跡調査の限界を想起させる中で、昭和53年の80名だけはいずれの調査年度でも他年度入会者より常に高い継続参加割合を示していた結果などを考えると、煩雑で長期間に及ぶ調査の成否を決定づけるものは、調査に対する理解、意識、義務感などが極めて高い昭和53年度のような調査対象者を如何に多く確保できるか否かにかかっているといても過言ではないようだ。

本調査の実施については、11月の平日で3日間などという、調査実施の時期、曜日、期間は大部分の対象者は問題ないようである。しかし、調査期間が3日間に及ぶことについてや、食品を秤量することの面倒・難しさなどは役員経験者と役員経験のないものとは統計的有意差がみられ、役員経験のないものが調査を長く感じたり、食品の秤量に面倒・難しさなどを訴えていた。このことは会員としての意識の低さから生じたものと思われるが、今後は調査する側にもこういった負担を軽減する調査法方法の開発を急ぐ必要がある。

しかしながら、役員経験の有無によっていくつもの事項に意識の差があったにも関わらず、全体としてのこの調査は、難しく感じられたという回答が54.1%あったりもしたが、ためになったという者が77.0%、調査結果に期待するという者が84.5%、再び栄養調査が計画されたら参加するという者53.4%もいるなど、煩雑で長期間に及んだ会の活動として実施された本栄養調査は地域公衆栄養活動の一つとしてそれなりの理解や協力がなされていたものと思われる。

本調査対象者の調査参加状況と、前述²⁻⁶

の幼児、小児、学童や Framingham Study などの調査とは目的、方法、対象規模などが違い、比較することはできない。いずれにしても、本調査の参加状況アンケートの結果とは、会の活動として開始された調査における一つの減少パターンと参加者の意識を示しており、経年的に一定数以上の対象者の確保を図るコーホートの調査計画の企画などに大きな意味をもつものとなろう。ただ残念なのは、調査不参加からのアンケートの回答が少なかったことで、不参加の理由の中にこうした調査のさらなる発展の鍵が存在しているものと思われる。

文 献

- 1) 豊川浩之、丸井英二、高木廣文：疫学 86、メジカルフレンド社 (1986)
- 2) 岡田玲子：発育期の食物消費構造の横断的・縦断的調査よりみた一特性、第33回日本栄養改善学会講演集428 (1986)
- 3) Ford, B. G. & Taylor, R.: Risk groups and selectivie case findings in an elderly population, Soc. Med., 17, 10-17 (1983)
- 4) Tibbenham, A., Peckam, C. & Gardiner, P.: Vision in children tested at 7, 11 and 16 years, Brit. Med., 1, 612, 1312-1314 (1978)
- 5) 松原 勇、他：学童コーホートの20年の調査における転出及び回答率、民族衛生第58巻第6号 326-335 (1992)
- 6) Willam B.; Some Lessons in Cardiovascular Epidemiology From Framingham, The American Journal of Cardiolgy Vol. 37 p269 (1976)
- 7) 金子 俊：農村主婦の食生活に関する研究 (千葉県大網白里町食生活実態調査)、生活科学研究第2集43-47 (1980)
- 8) 金子 俊：農村婦人の食生活に関する研究 (第2報) (摂取エネルギーから見た「食べ方」について)、生活科学研究第3集3-14 (1981)
- 9) 金子 俊：農村主婦の食生活に関する研究 (第3報) (生活時間と食生活)、生活科学研究第5集31-37 (1983)
- 10) 金子 俊：農村婦人の食生活と体格 (第1報) (摂取エネルギーの日内配分)、第45回日本民族衛生学会総会講演集113 (1980)

- 11) 金子 俊、他：農村主婦の性格と食生活に関する研究、第43回日本民族衛生学会総会講演集(1978)
- 12) 金子 俊、若林文子、丸井英二：食事構造に関する研究(第1報)、第56回日本民族衛生学会総会講演集58(1991)
- 13) 金子 俊、西川浩昭、松村康弘、丸井英二：経年栄養調査対象者の参加・脱落、民族衛生第55巻第4号169-190(1987)
- 14) 金子 俊：長期経年栄養調査にもとづく食品摂取構造の分析、民族衛生第58巻第4号209-223(1992)
- 15) 丸井英二、金子 俊、松村康弘：都市近郊農村婦人の食生活に関する研究(第1報)(調査の概要と経年変化)、第29回日本栄養改善学会講演集132(1982)
- 16) 丸井英二、松村康弘、金子 俊：都市近郊農村婦人の食生活に関する研究(第3報)(食物摂取の日内配分)、第29回日本栄養改善学会講演集136(1982)
- 17) 丸井英二、金子 俊：農村主婦の食事の日内配分について、第34回日本公衆衛生学会総会講演集(1983)
- 18) 丸井英二、金子 俊：農村主婦の食生活の5年間(第1報)(調査の概要と日内配分)、第48回日本民族衛生学会総会講演集146(1983)
- 19) 松村康弘、丸井英二、豊川浩之、金子 俊：食材料構成に関する研究(食品数を中心として)、第46回日本民族衛生学会総会講演集110(1981)
- 20) 松村康弘、丸井英二、金子 俊：都市近郊農村主婦の食生活に関する研究(第2報)(食品の組合せからみた摂取状況)、第29回日本栄養改善学会総会講演集134(1983)
- 21) 松村康弘、丸井英二、金子 俊：農村主婦の食生活の5年間(第2報)(摂食パターンとの関連)、第48回日本民族衛生学会総会講演集148(1983)
- 22) 西川浩昭、丸井英二、金子 俊、松村康弘：都市近郊農村主婦の食生活の変遷(7年間の食物摂取状況調査から)、第45回日本公衆衛生学会総会講演集(1986)
- 23) 千葉県警察部：千葉県山武郡山辺村ニ於ケル農村保健衛生状態実地調査報告(1923)
- 24) 丸井英二、金子 俊、他：千葉県下一農村における健康調査、第43回日本民族衛生学会総会講演集(1978)
- 25) 金子 俊、丸井英二、豊川浩之：身体状況との関連追求のための個人別食物摂取状況調査票の検討、公衆衛生第43巻第7号508-551(1979)

表 1 栄養調査に関するアンケート

あなたの年齢 _____ 歳、職業（具体的に… _____） 配偶者の職業（具体的に… _____）

1. 現在、栄養改善協議会の会員ですか----- (1. 会員である 2. 退会した)
2. 現在、会の役員をしている、或は過去に役員をしたことがありますか---- (1. ある 2. ない)
3. 現在、推進員である、或は過去に推進員をしたことがありますか----- (1. ある 2. ない)
4. 以前、会でおこなった栄養調査に参加したことがありますか----- (1. ある 2. ない)

5. 4で参加したことが「ある」と回答された方にお聞きます

①参加回数は何回くらいですか----- (_____ 回)

②どうして参加したのですか (いくつでも○印をつけて下さい)

- 1 ……会の活動であるから進んで
- 2 ……会の活動であるからしかたなく
- 3 ……自分の状態を知るため
- 4 ……会全体の状態を知るため
- 5 ……ほかの会員に勧められたから
- 6 ……人の経験やうわさを聞いたから
- 7 ……役員や推進員だから他に範を示すため
- 8 ……なんとなく
- 9 ……おもしろそうだから
- 10 ……簡単そうだから
- 11 ……難しそう、面倒そうであるが挑戦するつもりで
- 12 ……町や会の記録として残すため
- 13 ……その他 (_____)

③調査の実施方法についてはどのように思いましたか

1. 11月という実施時期は…………… (1. 別の時期の方がいい 2. 問題ない)
2. 平日での調査は…………… (1. 土曜・日曜がよい 2. 夏休みや冬休みがよい 3. 問題ない)
3. 3日間という期間は…………… (1. 長い 2. 短い 3. 適当)
4. 食品を秤量することについては… (1. 面倒・難しい 2. 安易・簡単 3. どちらともいえない)
5. 家族の協力が必要でしたか………… (1. 必要 2. 不必要)
6. 調査結果に期待しますか………… (1. 期待する 2. 期待しない 3. わからない)
7. 再び栄養調査が計画されたら…… (1. 参加する 2. 参加しない 3. わからない)

④実際調査に参加されて全体としてどのように感じられましたか (いくつでも○印をつけてください)

- (1. 面倒だった 2. 難しかった 3. やさしかった 4. 楽しかった 5. 苦しかった 6. ためになった
7. ためにならなかった 8. その他、具体的に…… (_____)

6. 4で調査に参加したことが「ない」と回答された方にお聞きます

①どうして参加しなかったのですか (いくつでも○印をつけてください)

- 1 ……忙しかったから
- 2 ……難しそうだったから
- 3 ……人の経験・うわさを聞いて
- 4 ……なんとなく
- 5 ……面倒そうだから
- 6 ……結果に期待がもてない調査だと思ったから
- 7 ……その他 (_____)

②再び栄養調査を計画されたら…… (1. 参加する 2. 参加しない 3. わからない)

7. その他栄養調査に関してご意見ご希望ご提案などがありましたらご記入下さい

ご協力ありがとうございました

整理番号